

# 中大 2-4 駒大 優勝に向け

エース・白崎勇気

【左】完投した白崎勇  
【下】5回、同点打を放った白崎浩

4番・白崎浩之

# 白星発進!

1回戦

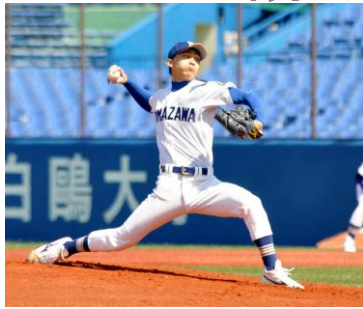
11年春季リーグ  
第1週・4月5日  
1勝0敗

中	大	0	1	0	0	0	0	2
駒	大	1	0	0	3	0	0	× 4

[駒大]	打安点
④小 林	4 0 0
⑨中 谷	4 1 0
⑥岡 岡	4 2 0
⑤白崎 浩	4 2 1
⑧奥 野	2 0 0
DH 友 滝	1 0 0
HD 柴 田	2 1 1
⑦江 越	4 0 0
②戸 柱	3 1 0
③増 本	3 0 0
計	31 7 2

▽二塁打=白崎浩、岡

○白崎勇	回	打安責
	9	35 7 2



08年春以来の1部リーグ



【左】試合に勝利し、笑顔を見せる白崎浩(左)と白崎勇

初戦の相手は、昨年の甲子園大会で春夏連覇を成し遂げた中大・島袋洋奨(1年II興南)。序盤こそリードを許すが、5回に逆転。立ち直りを見せたエース・白崎勇気(営4)が最後まで投げ抜き、完投勝利を収めた。

観客数の多さが、コンスに直撃し、同点の試合の注目度を表すの適時二塁打に。続いて通常の4割増という観客のお目当ては間違いなく、中策を誘い、苦しめられたエースとして、は5回以降、被安打は負けられない」と、島袋に對抗意識を燃やしたのは4年生の白崎勇。だが、先制した直後の2回に2死二塁から右前適時打を浴び失点。3回には右翼席へソロ本塁打を放たれ、勝ち越しを許した。

4回まで3安打に抑えられていた打線の1日だった」と称されたが、5回に好機を迎えた。2死二塁と一打同点の場面をつくと、打席には4番・白崎浩之(法3)。「自分のスイングをした」打球は左越フェ

援護を受けた右腕は5回以降、被安打1に抑え、143球で完投。1部で6季ぶりの勝利をもたらしたと同時に、戦国東都のレベルの高さを新人に押し見せつた。

小椋正博監督は「(島袋について)ピッチングがうまい。ただ、今日は白崎勇の1日だった」と称した。1部復帰後、即好スタートを切った。

文II丸山翔太  
写真II橋本圭史  
水出綾香

W白崎が  
投打で奮起

## 投打かみあわず、大差で敗戦...

# 駒大 1-9 中大

2回戦

11年春季リーグ  
第1週・4月6日  
1勝1敗

駒	大	0	0	0	1	0	0	1
中	大	1	3	0	0	2	3	× 9

[駒大]	打安点
④小 林	4 2 0
⑨中 谷	3 1 0
⑥岡 岡	3 0 0
⑤白崎 浩	4 0 0
⑧奥 野	4 2 0
DH 山 下	4 1 0
⑦江 越	3 1 1
②戸 柱	3 0 0
③増 本	3 1 0
計	31 8 1

▽二塁打=山下、奥野  
▽本塁打=江越

●	回	打安責	
井	5	2/3	28 7 3
小	0	1/3	1 0 0
高	0	2/3	6 3 3
栗	0	1/3	2 1 0
木	1		4 1 0

先勝して迎えた2戦目。打線は8安打放つが、いずれも散発に終わった。投手陣も本塁打を2本浴びるなど振るわず、1部復帰後初の勝ち点はお預け。

強豪ひしめく戦国東都の厳しさを思い知ることとなった。

「球じゃなくて気持ちが悪くないね」。2戦目の先発を任せられた井口拓皓(経3)に小椋正博監督はそう苦言を呈した。

初回に本塁打を許すと、2回には安打と失策が絡む3失点。その後も毎回のように入走者を背負った。6回途中でマウンドを譲ることとなった井口は「中大打線は」



2回、連打を浴びる井口

別に。僕自身が...と言葉を濁した。後を引き継いだ投手陣も崩壊。連勝できず、聖地・神宮で1部の洗礼を浴びてしまった。

打線は2回に山下高久雅(法4)、7回には奥野智也(経4)がともに左中間二塁打を放つなど攻撃の足掛かりをつくるが、あと一本が出ず凡退。ここぞの場面でのつながりを欠いた。

唯一の打点は、江越大賀(法1)がバックスクリーンに放った一発だ。黒星を喫したチームとは対照的に、「狙っていた」スライダーを痛打。自身初安打を最高の形で記録した。

1戦目を勝利していただけに「隙があったと思う」と試合を振り返った岡将吾(主将法4)。明日は勝ち点が懸かった大事な試合。どれだけ集中して臨めるかが勝敗のカギとなりそう。

文II水出綾香  
写真II宮崎 桂